



私の3冊

織田靖史

後輩に薦める2冊

岡本裕一朗（著）

いま世界の哲学者が考えていること ダイアモンド社、2016年発行

現代社会は、大きな転換期を迎えています。地球規模での環境問題や異常気象、経済や交流のグローバル化による価値の多様化、IT技術や遺伝子操作などのテクノロジー発展による働き方や命との向き合い方の変化、など「どう生きるか」が問われる時代を迎えています。「ひとが生きる」ということを真剣に考え、尊厳を取り戻す支援をするリハビリテーション職に、そのことについて考えるヒントを与えてくれる1冊になるでしょう。

伊藤絵美（著）

つらいと言えない人がマインドフルネスとスキーマ療法をやってみた。

医学書院、2017年発行

私たちは、医療者である限り、また社会人である限り、理性を重視し、理性により行動をコントロールすることを求められます。そして、自分自身もその役割を遂行するため、理性的であろうとします。しかし、それだけでは苦しくなってしまうのです。自分らしさやあるがままの自分は理性でのみ形作られているわけではありません。感情という自分の彩りが滲み出てこそ、私は私らしくあるのでしょうか。この本を手には、自由な私を取り戻してみませんか。

自分の1冊

成田善弘（著）

新訂増補 精神療法の第一歩 金剛出版、2007年発行

作業療法士2年目の悩める時期に出会い、それから私の根底にはこの本があります。臨床でひとの話を聴くとはどういうことなのか？何を想い、どう考えながら話を紐解いていくのか？ひととしてひとと出会い、どう迎え、受け入れ、どう振舞うのか？成田先生の豊富な経験や学識に基づくお考えに本書を通して触れ、救われました。それ以降、時々読み返していますが、自分の経験が増えるごとに、毎回違ったことを本書は教えてくれます。そんな叢智の詰まった1冊です。

■おりた・やすし 作業療法士14年目 県立広島大学保健福祉学部作業療法学科

玉野総合医療専門学校卒業後、高知県の精神科で臨床をしていた。急性期の作業療法やうつ病のリワークデイケア、統合失調症の就労支援・生活支援などを行っていたが、2010年ごろより感情調節が困難な対象者へのプログラムにかかわる。作業療法を中心にさまざまな精神療法や運動療法などに取り組む中で、臨床を続けながら吉備国際大学大学院に進学し、マインドフルネス作業療法の開発に取り組む。また、精神障害者スポーツにも関心が高い。2018年9月より現職となる。